

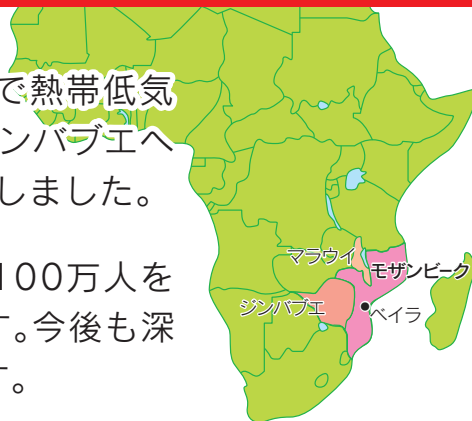
大型サイクロン「イダイ」による 自然災害緊急募金へご協力ください。

2019年3月4日にモザンビークとマラウイで熱帯低気圧として発達した大型サイクロン「イダイ」は、ジンバブエへと移動しながら、この地域に甚大な被害をもたらしました。

最も影響を受けたモザンビークでは、子ども100万人を含む185万人が、切実に支援を必要としています。今後も深刻な被害と子ども達への影響が心配されています。

日本生活協同組合連合会を通じて日本ユニセフ協会から援助資金の支援要請がありました。これを受けてコープおおいたでは、「大型サイクロン「イダイ」による自然災害緊急募金」に取り組みます。

組合員のみなさまのご協力をお願い致します。



©UNICEF/UN0288659/luskauskas
サイクロンによる大雨と洪水の被害に遭ったマラウイのマルカ地域(3月14日)

大型サイクロン「イダイ」による自然災害緊急募金の方法

下記4桁の番号と数量(口数)を注文書にご記入の上、ご提出ください。

1口 100円 2829

数量「1」で100円の募金となります。

1口 1000円 2848

数量「1」で1000円の募金となります。

- 募金額は商品代金と一緒にご請求させていただきます。翌月の口座引落日に振替をさせていただきます(尚、口座振替不能の場合は、次回の請求はいたしません)。
- コープおおいたの各店舗にも募金箱を設置しています。ご協力をお願いいたします。

OCR・店頭募金 **受付期間は7月19日(金)まで**



生活協同組合コープおおいた

大型サイクロン「イダイ」による 自然災害緊急募金へご協力ください。

2019年3月4日にモザンビークとマラウイで熱帯低気圧として発達した大型サイクロン「イダイ」は、ジンバブエへと移動しながら、この地域に甚大な被害をもたらしました。

最も影響を受けたモザンビークでは、子ども100万人を含む185万人が、切実に支援を必要としています。ペイラでは、インフラ施設が深刻な被害を受け、都市部は水が引かないために深く浸水したままです。収穫期直前の洪水により、モザンビークの例年の穀物生産量の50%までもが破壊されました。マラウイでは、44万3,000人の子どもを含む、86万9,000人以上が影響を受け、8万5,000人以上が避難生活を余儀なくされています。またジンバブエでは、27万人以上が影響を受け、その半数は子どもです。

サイクロンの被災地の状況は、さらに悪化することが予測されています。日和見感染症の拡大を防ぐための時間も極めて限られています。淀んだ水、不十分な衛生環境（トイレ）、遺体の腐敗、過密した仮設住居といった現状は、下痢症、マラリア、およびコレラ集団感染を容易に引き起こす可能性があり、特に感染しやすいのは子どもたちです。モザンビーク当局は、ペイラですでに最初のコレラの症例が確認されたと発表しました。不衛生な環境下で避難生活を送る人々への広がり懸念されています。

一人でも多くの命を守るように、みなさまのお力をお貸しください。



©UNICEF/UN0293266/DE WET
サイクロンが直撃した日から12日後のモザンビークのペイラ空港上空。農地に洪水の爪痕が残っています。(3月27日)



©UNICEF/UN0292282/DE WET
サイクロンによって屋根が完全に破壊されたモザンビーク・ペイラ地域の中学校。教科書も水浸しになった。(3月25日)



©UNICEF/UN0291857/Prinsloo
地滑りが起こったモザンビーク・ペイラの市内の様子。(3月24日)



©UNICEF/UN0290284/DE WET
被災した非公式居住地で息子を抱える母親。(3月20日)



©UNICEF/UN0293297/DE WET
サイクロンによる洪水の影響で1ヵ月近く経っても水浸しのモザンビーク・ブジ地域の道路。(3月27日)



©UNICEF/UN0291818/Prinsloo
サイクロンで自宅を失った家族が身を寄せるモザンビーク・ブジ地域の学校でマーケットからの食糧支援を受け取る様子。(3月23日)



©UNICEF/UN0291813/Prinsloo
サイクロンで自宅を失った家族が身を寄せるモザンビーク・ブジ地域の学校でマーケットからの食糧支援を受け取る様子。(3月23日)

募金の方法は表面に記載しています。